

## 大崎市民病院医療事故の公表について（包括的公表）

平成23年4月1日以前に発生した医療事故は次のとおりです。

No.	概 要	原 因	改善・対応策
1	気管支喘息発作で入院した患者に対しネオフィリンの過剰投与があり、同日夜間に興奮状態となったことから翌朝中止した。	ネオフィリンと生食水の混合濃度計算を間違えた。	<p>当院で使用するネオフィリンと生食水の混合比率を常に一定にする。</p> <p>注射指示・実施簿は年齢を記入し、薬剤部でも投与量を確認する。</p> <p>薬剤の投与に関して定期的に勉強会を実施する。</p>

平成23年4月1日～平成23年9月30日に発生した医療事故は次のとおりです。

レベル3bまたは4aに該当する件数

3b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、入院日数の延期、外来患者に入院、手術、骨折）	3件
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題を伴わない	1件

このうち、他の医療機関の事故防止につながると考える事例を、下記のとおり掲載します。

No.	概 要	原 因	改善・対応策
1	創外固定し松葉杖歩行をしていた患者がシャワー浴施行後、一人で病室に戻る途中、廊下で転倒し再骨折した。	シャワー浴後、一人で松葉杖歩行した。創外固定に付着していた水分が床に落ち、すべりやすい状態にあった。	入浴後の創外固定者の松葉杖歩行は滑る危険性があるため、車イスや歩行器使用を考慮する。
2	左橈骨動脈からアプローチしPCI（経皮的冠動脈形成術）施行し、プロトコール通り20mmHgまで減圧した。約1時間後訪室したところ、シース抜去部より出血あり、血圧低下し一時ショック状態となった。	CAG・PCIを繰り返し行っていた患者であり、出血しやすい状態にあった。	減圧後、短時間で訪室し観察を強化する。